

鹿児島県助産師会 研修会研修報告

研修会名：親子の絆を作る「赤ちゃんとのふれあい遊び」

講師：社会福祉法人菱刈福祉会 慈光保育園
伊佐市菱刈子育て支援センター長 瓜生島浩子 氏

日時：2018年6月29日（土）10：00～12：00（9：30 受付開始）

会場：勤労交流センター（よかセンター）7階第一会議室

参加者：助産師、保健師、保育士

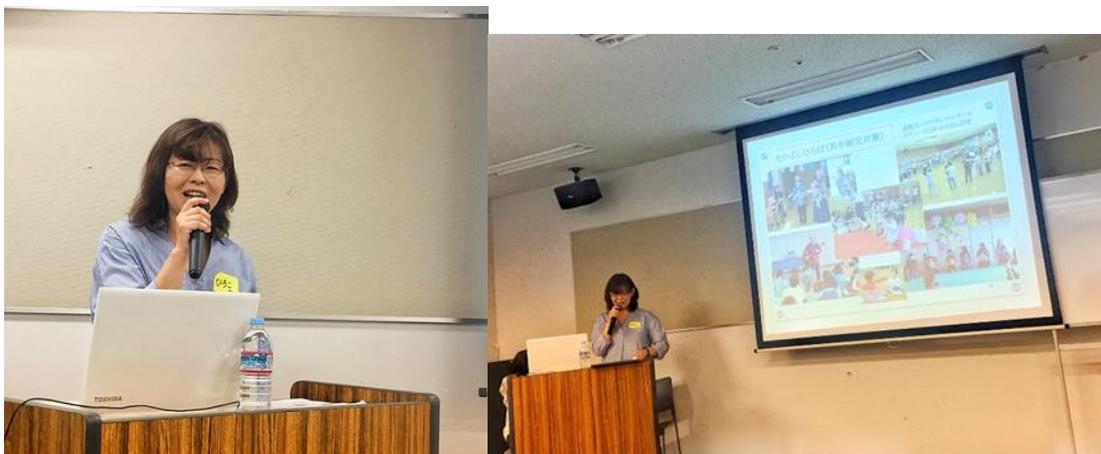
参加者： 31名（会員25名、会員外6名）

当日の進行

9:00	スタッフ集合 ミーティング 会場設営 ・受付のセッティング（名簿、当日資料、受講証） ・マイク二本テスト、音響確認、空調調節
9:30	受付開始 講師との打ち合わせ プロジェクター設置・動作確認
9:55	影ナレスター
10:00	研修会開始 開会挨拶 保健指導部会部会長 久永 房子 講師紹介
10:05	講話開始・グループワーク
10:55	休憩（5分間）
11:00	後半講話開始、実技（ふれあい遊び）
12:00	講話終了 鹿児島県助産師会挨拶 鹿児島県副会長 市来久美
12:15	閉会 撤収

講座の内容

1：保育の場から感じる社会の移り変わり



社会環境の変化

共働き家庭も多く、昔から地域で見かけた親同士の「井戸端会議」の光景もなくなり、どんどん孤立した子育てが進んできているように感じる。また、晩婚化も進み少子化の傾向にもある。

さらに、子ども同士が群れて遊ぶ姿も少なくなってきており、親も子も双方、色々なことに対する経験不足があるように思う。

また、転勤などにより転入してきた地縁のない子育て中の親子も増えてきている。

親子のきずなが深まりにくい現代

○ライフスタイルの多様化や、メディア漬けの生活など、子どもを取り巻く養育環境の変化から見ても、心が育たない・身体が育たない・脳の育ちへの影響が考えられ、愛着形成がおかしくなっている。

○初めて育児をするお母さんたちにとっては、赤ちゃんとの関わり方を知る機会もないままお母さんになっている現状がある。

○妊娠時期から母親になる準備が必要。

○一人の母親に対して、継続的な支援をつくりだすことは難しい現状がある。

保健師、助産師、子育て支援センター、地域等とつながることができれば妊娠時期の不安や産後鬱、育児不安の軽減になり、虐待予防になるのではないかと。

2：イマドキのお母さん・子どもの傾向

お母さんの傾向

- ・高年齢もしくは若年出産で年齢差を気にして集団の場に行きたがらない
- ・人中が苦手でママ友がいない
- ・人と関わるのが苦手なコミュニケーション力の低下

- ・産後すぐの仕事復帰
- ・一人で子育てをしているワンオペ育児
- ・転入などで近くに頼る人もいないアウェイ育児
- ・こうでなければいけないという思い込み
- ・携帯依存症

赤ちゃんの傾向

- ・そりが強く、ピーンと伸びた身体。
- ・しがみつく力が弱い。
- ・身体が柔らかい。・意欲が弱い
- ・泣きのタイミングが分からない（過敏）
- ・眠りが浅い（寝かせられない）、
もしくは寝てばかりで手がかからない
- ・横抱きを嫌がる
- ・左右差が気になる
- ・表情変化が乏しい

3：お母さん支援の活動の実際

上記のような母子や今の社会背景に対して講師がおこなっている支援の実際の説明。妊娠期から幼児期までの継続した関りと行政や助産師との連携の実際も紹介



講師のメッセージ

- ・母親のそばに、「いつでも声をかけてね。何でも聞いていいよ。」と優しく声を掛けてくれる人。分からないことを分からないと伝えられる人がすぐそばにいてくれたなら、どんなに安心して子育てができるでしょう。
- ・親はみな、自分のこどもが健康で幸せに育って欲しいと願っています。イマドキのお母さんと子どもは 助けを求めているのかもしれない

4：BP プログラムについて

○BP プログラムとは

- ★前期・後期がある。前期(2 か月～5 か月)・後期 (5 か月～8 か月)
- ★初めて赤ちゃんを育てている母親と 2 か月～5 か月までの赤ちゃんと一緒に参加するプログラム。
- ★1 回 2 時間・毎週 1 回・同じ曜日・同じ時間帯で連続 4 回
- ★参加者中心型です。一方的に話を聞くのではなく、参加したお母さん同士が話し合う中で、育児の知識やスキル、親の役割などを一緒に学び、深めていく★1 回のセッションは 5 部構成。

- ①導入：BP の過ごし方を知る・ゲーム・親子ふれあいタイム
- ②主部 1：テーマでの気づきについてペア・グループでの話し合い
- ③主部 2：DVD/テキストでの学び
- ④結び（振り返り・一人一言）
- ⑤交流・質問・交流タイム

★資格のある 2 名のファシリテーターで進行。

参加者 10 名までの場合はファシリテーター 1 名で進行。ただし、その場合はアシスタントをつける。

★それぞれのセッションにはテーマがあり、学習目標がある。

- | | |
|-------------|---------------|
| 第 1 回目セッション | テーマ：新しい出会い |
| 第 2 回目セッション | テーマ：赤ちゃんのいる生活 |
| 第 3 回目セッション | テーマ：赤ちゃんとの接し方 |
| 第 4 回目セッション | テーマ：親になること |

詳細や資格については下記 URL から検索



<http://www.akachangakita.com/index.php>

5：保健指導に活かせる赤ちゃんとのふれあい遊び



0歳前半と0歳後半の乳児を対象にした親子の触れ合い遊びを体験。歌いながら子の発達と親子の愛着促進を図る

・先生からのメッセージ

○ふれあい遊びでお母さんから伝わる心地よさ

・触る…折にふれて触る。触ってもらって嬉しい。温かい手の温もり、気持ちよさをいっぱい感じて心が穏やかになっていきます。

・声掛け…変化を怖がる赤ちゃんに「大丈夫だよ。そばにいるよ。」の安心感。赤ちゃんの気持ちを代弁してあげることで気持ちが分かりあえてきます。

・視線…優しいアイコンタクトで「いつも見ているよ。」の安心感と関わり合う喜びの確認（目は感情の窓）。視線を動かし首座りや発達を促します。

・表情…笑顔で話しかけることで赤ちゃんの表情も柔らぎます。あやしかけで赤ちゃんから声が出てきます。一緒に喜んで！

・匂い…おっぱい・ミルクのいい香りとママの温もりを感じます。



